

## 第20回 夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ

——雨と災害——

**主催** 日本気象学会

**後援** 気象庁, 東京都教育委員会, 日本地学教育学会,  
財団法人日本気象協会

毎年開催し好評を得ております「新しい気象学」を本年も開催します。この講座は、新しい気象学の普及をめざし、主として小・中・高校の地学・理科担当教師を対象として行うものですから、特に教職にある方の多数のご参加を希望いたします。

### 記

**対象** 小・中・高校の理科担当教師および気象愛好者を主体とし、その他学生および一般の希望者。

**受講料** 一般6,000円, 教員5,000円, 気象学会員・日本地学教育学会員・学生4,500円

**日時** 昭和61年7月28日(月)12時(受付開始)  
7月31日(木)14時頃(終了予定)

**場所** 東京都千代田区大手町1の3の4  
気象庁講堂

ただし、台風来襲時には講堂の使用が不能になりますので、会場を他に変更することもあります。

**申込先** (〒100) 東京都千代田区大手町 1-3-4

気象庁内

日本気象学会事務局

Tel. 03-212-8341 (内線 469)

**申込締切** 昭和61年7月20日まで

### ●会場への交通

地下鉄 東西線竹橋駅下車

もしくは

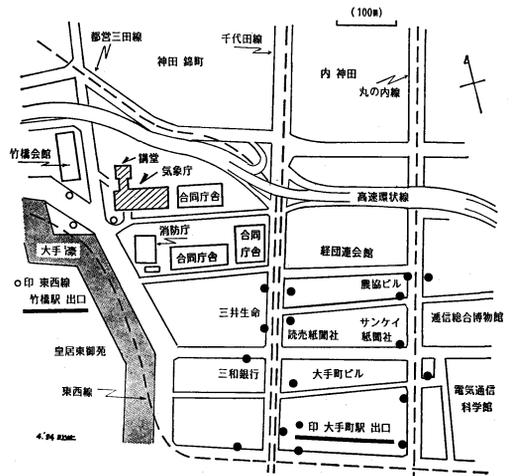
地下鉄 千代田線, 丸の内線, 都営三田線  
大手町駅下車

**申込方法** 次頁の様式の申込用紙に記入して申し込んで下さい。参加決定次第受講票をお送りします。ただし、定員に達し次第締め切ります。

受講料は、1. 現金書留, 2. 郵便替為, 3. 振替貯金(口座番号 東京 3-5958, 加入者名 日本気象学会)のうち適当なものを御利用下さい。

**特典** 受講者には、講義全内容のテキストを無料配布します。全講義出席者には日本気象学会入会の資格および入会金の免除、学会出版物についての便宜をはかります。

**テキスト** テキストのみ希望される方は代金を添えて必要部数を申し込んで下さい。1部1,500円, 送金方法は受講料の送金方法に準じて下さい。なお、刊行部数が少ないので希望者はできるだけ早めに申し込んで下さい。



第20回 夏季大学「新しい気象学」受講申込書

第20回夏季大学の受講を希望いたしますので申し込みます。

受講料は、1. 現金書留、2. 郵便替為、3. 振替貯金で送りました。

(受講料の送金方法1～3のいずれかを○で囲んで下さい。)

昭和 61 年 月 日

氏 名 年 齢 歳 職 業

自宅住所 (〒 ) 電 ( )

勤務先等  
名 称  
連 絡 先 (〒 ) 電 ( )

所属学会

..... 切 取 線 .....

講 義 時 間 表

	午前 (10時～12時)	午後 (13時～15時)
7 月 28 日 (月)	—————	<b>降水システムとしての低気圧・前線</b> 樞間道夫 (気象庁予報課) 衛星やレーダー観測の進歩で修正されつつある温帯低気圧・前線の構造モデルについて最新の研究を南岸低気圧などを例に紹介する。
7 月 29 日 (火)	<b>雨の短時間予報</b> 竹村行雄 (気象庁予報課) 進歩の目ざましい電子技術を駆使したレーダー、アメダス、衛星など最新の観測と予報システムによる降雨予測の話。	<b>雨と水害</b> 吉田正一 (東京都河川部防災課) 都市型のゲリラ豪雨水害など、近年の水害の特徴と東京都の河川情報システムを紹介する。
7 月 30 日 (水)	<b>天気図から雨を読む—高層天気図の解析実習—</b> 足立 崇 (気象大学校) 高層天気図とは何か? 高層天気図の実習を通して雨や雪をもたらす雲の構造を3次的にみる。	<b>高層天気図実習</b> 足立 崇 (他) 午前の講義を基に実際に高層天気図を解析してみる。
7 月 31 日 (木)	<b>NOAA 衛星画像の気象・水象・海象観測への応用</b> 斉藤誠一 (日本気象協会・気象情報センター) 気象衛星 NOAA の超高分解能放射計データを用いて降水・雲の分布の動態を追う。パソコンを利用した解析例を紹介する。	<b>映 画 日本の気象—降水特性—</b> 世界の中での日本の気象の変化を解説。 <b>長崎災害—土石流災害—</b> 57年7月長崎災害当時の被災状況の記録とそのメカニズムの解説。

\* 火曜日と水曜日15時から気象庁見学。